

2025 10/28

No.2245

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



江戸時代に酒匂川を渡る手段だった「徒歩渡し」^{かち}を再現するイベントが小田原市で初開催。木材を組んだ輦台^{れん}に地元
の小学生らが乗り中州まで往復した。



政経かながわ

2025 10/28

No.2245

contents

視点点描

「トップの言葉」が問うもの

3

講演録

参院選神奈川・横浜市長選と今後

神奈川新聞社特別編集委員 有吉 敏

4

特集

パワハラ防止・解決には

経営トップの覚悟が不可欠

『パワハラ上司を科学する』の著者が強調

8

経済双眼鏡

2人の「鉄の女」

日本版サッチャーになれるか

12

サヘル・ローズ×リアルワールド

わからないまま歩く

13

神奈川景気データファイル

14

事務局だより

◇2025年11月定例講演会

11月19日(水)午後1時30分～3時
崎陽軒本店(横浜駅東口)

講師：ありあけ創業オーナー

藤木 久三氏

演題：`なるほど！感動カンパ
ニー、への挑戦
～逆境を生き抜くプラス
発想～

◇2025年12月定例講演会 (シンポジウム・会員交流会)

12月15日(月)午前11時～午後1時
30分

ロイヤルホールヨコハマ
(横浜市中区)

講師：共同通信社政治・経済・
外信部長など

演題：2026年の動向を読む

◇2026年1月定例講演会

1月15日(木)午後1時30分～
午後3時

神奈川新聞社12階大会議室
(横浜市中区)

講師：文芸評論家 三宅香帆氏

演題：なぜ働いていると本が読
めなくなるのか

◇2026年2月特別講演会(講 演・交流会)

2月18日(水)午後3時30分～
午後7時30分(予定)

ホテルニューグランド
(横浜市中区)

※講師・演題は調整中

【お知らせ】会報「政経かながわ」
に会員企業の新商品の紹介、地域
貢献活動、人事などジャンルを問わ
ずさまざまな会員情報を掲載してい
ます。掲載の問い合わせなどは事
務局☎045 (226) 2121。

してケアを続けているという。だからこそ、「捨てる」という言葉も自身の覚悟の表れなのだろう。

介護を実際に経験している人の言葉には重みがある。介護への向き合い方には、その人ならではの家族観や人生観が如実に表れるものだと思う。だが、トップの言葉は、時として現場に波紋を広げる。「捨てる」とまで言われたワークライフバランスは、誰かにとっての命綱だったかもしれない。

材は代わるよ」と声をかけてくれた人たちがいた。働き方に余白を持たせてくれたからこそ、また前を向くことができた。

ワークライフバランスの対極にある過労死という言葉を思い浮かべつつ、新任管理職として仲間たちの働き方をどう支えるか。まず忘れてはならないのは「働き過ぎた末の犠牲」だと考えている。過労死防止法ができた背景には誰かの痛ましい経験があるからだ。

かつて私自身、子育てと介護を

同時に担う「ダブルケア」に直面した。保育園の送り迎え、義母の認知症、夫の急病、そして日々の取材。すべてが重なったあの日、ただ果然^{ほうぜん}と立ち尽くした。働くことは尊い。しかし、働き続けることが「生きること」を脅かす場合もある、と感じた瞬間だった。

しながら働ける職場。それこそが、持続可能な組織の土台になると信じている。決して高市氏の発言の揚げ足を取るつもりはないが、為政者の言葉は社会の空気を一変させることもある。その重みと影響について、深い配慮と想像力を求めたい。

「働いて、働いて、働いて、働いて、働いてまいます」――。日
本初の女性首相、高市早苗氏が自
民党総裁選の勝利後に放った言葉
が物議を醸した。「ワークライフ
バランスを捨てる」と言い切った
その姿勢に、党再建に向けた決意
表明として受け取った人もいれ
ば、強い違和感を覚えた人もいる。
確かに、公職のトップには重い

高市氏は夫の介護を担っている
と聞く。食事の準備や入浴の介助
など、政治家としての激務と並行

幸い、当時の上司や同僚に理解があった。「今日は早く帰って」「取

（神奈川新聞社編成部長デジタ
ル編集担当・鈴木 美帆子）